

【工数削減のご提案】 警報/演算/レンジ変換対応で、演算結果を簡単に表示！

Before

ロギング機能で演算機能が使えず、あらかじめマクロやPLCの処理が必要だった…

D101 = 1



<数値表示>



演算機能でPLCの値x60を表示

<トレンド> そのままのPLCの値を表示



マクロで\$u101 = D101 x 60の処理をして、\$u101の値をロギング



警報/演算/レンジ変換機能を使えば！

※V-SFT Ver.6.1.1.0~対応

After

ロギング機能でも数値表示と同じように、演算後のデータを扱える！

D101 = 1



<トレンド> 演算後の値を表示



マクロやPLCラダーで演算
しなくてもよいため楽だね！

CSV出力結果も
演算後のデータになって
便利！

詳しくは次のページへ！！ 

演算結果を表示するには...

演算・レンジ変換・警報（数値表示のみ）の設定を行います。

<数値表示>

数値表示

警報

演算

0 (L) + (データ) X 60 (L)

レンジ変換

表示内容

スタイル

機能

演算・警報

<ロギングサーバ>

ロギングデータ データ出力先 制御デバイス設定 書式設定 その他

ロギング点数 1 / 256 一括設定 デバイス インポート エクス

No.	デバイス	タイプ	小数点	データ長	文字数	文字処理	変換
0	D00101	DEC	0	1ワード	2	LSB->MSB	あり

変換設定

演算

0 (L) + (データ) X 60 (L)

レンジ変換

シンボルも演算機能に対応

「シンボル」は、モニタッチ上で使用するPLCデバイスやV9の内部デバイス（\$u、\$Lなど）を自由な名前で登録し、画面作成ができる機能のことです。

<PLC1デバイス>

M0
D100
D101

<シンボル>

警報1
周波数設定
加速時間

表示デバイス

デバイス

シンボル 加速時間

シンボルの登録画面に演算設定があるので、複数アイテムにシンボルを使用する時も、一元管理ができる！

スクリーン[0] シンボル[0] x

ID	シンボル	タイプ	配列	要素数	デバイス	コメント	シンボル使用状況	変換
0	警報1	ビット	<input type="checkbox"/>		M00000		未使用	なし
1	周波数設定	ワード	<input type="checkbox"/>					あり
2	加速時間	ワード	<input type="checkbox"/>					あり

設定後は「変換」：ありになります

変換設定

入力形式 DEC

表示形式 DEC(符号なし)

警報

演算

0 (L) + (データ) X 60 (L)

レンジ変換

数値表示/ロギングサーバでチェックを入れて、設定完了！

<数値表示>

表示デバイス

デバイス

シンボル 加速時間

シンボルの演算/レンジ変換/警報を利用する

データ長 1ワード

<ロギングサーバ>

小数点	データ長	文字数	文字処理	変換
0	1ワード	2	LSB->MSB	なし
0	1ワード	2	LSB->MSB	あり

変換設定

シンボルの演算/レンジ変換を利用する

プログラムレスで演算！工数削減にぜひご利用ください！